学生が過ごしやすい居場所づくり

【アブストラクト】
本研究は、学校に毎日登校することができていない学生のための居場所をつくることを目的としたものである。居心地の良い居場所をつくるために必要なことはなにか、そして自分たちにできることは何かを知るために、スクールカウンセラーの方や外部企業の方々に話を聞きに伺って探究を進めてきた。探究を進めていくうちに、私たちは、家からあまり出たくない子どもや人と接することが得意ではない子どもも少なくないことを知り、メタバースやZOOMを使ったオンライン上での居場所づくりはできないかと考え、イベントの企画等行ってきた。

【キーワード】居場所、教育、メタバース、福祉、コミュニケーション

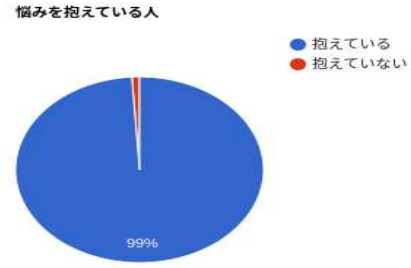
【本文】

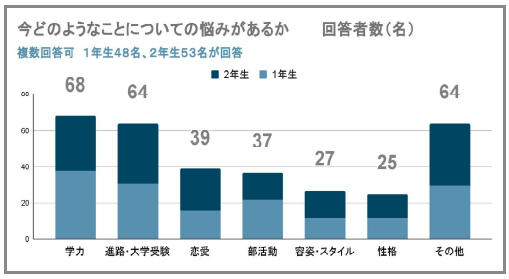
Ⅰはじめに

私は、将来教員になりたいという夢があるため、学校に思うように登校できていない生徒の気持ちを知って、生徒に寄り添うことができる教師になりたいという思いが以前からあった。加えて、宮城県が他県と比べて不登校が多いということを新聞記事を通して知り、
学校に行けていない人でも、笑顔で過ごせるような居場所を自分たちで作りたいと探究班員全員で考えるようになった。これらを背景に、「学生が過ごしやすい居場所づくり」をテーマに研究を行うこととなった。

Ⅱ研究方法
①アンケート（先行研究として、三高の1、2年生にどのような悩みをもっているかを調査）
②スクールカウンセラーや外部の方々に質問

Ⅲ探究内容
　はじめに、学生はどのような悩みを持っているのかを知るために三高の1，2年生にアンケートをとった。その結果が以下のグラフである。





(2022年12月　計103名にアンケート)
　このグラフから、悩みを抱えている人が約99％という結果になった。その内訳をみてみると、学力や受験、部活動で悩んでいる人が多く、人間関係で悩んでいるという回答はほとんど見られなかった。文武両道を掲げている、三高生ならではの結果となった。
しかし、私たちは学校で多くの人と関わっているので、人間関係等で悩んでいる人がもっといると思ったが予想以上に少なかったので、このアンケートからは私たちが目的とする探究はできないと判断した。
　次に、三高のスクールカウンセラーの方に三高生の利用頻度や、悩みを緩和させるためのコツをインタビューしに伺った。利用頻度は、月2回あるがほぼ全ての枠が埋まっており、利用する人が多いということがわかった。悩みの緩和のコツとしては、定期的にリフレッシュする時間を作り、ストレスを貯めないことや、自分が信頼している人に悩みを打ち明けてみることが挙げられる。しかし、みんながみんな、気軽に誰かに悩みを打ち明けることができるわけでわない。また、うまくリフレッシュできない人も中にはいるに違いない。だが、誰かに話すことをしなくても、自分が居たい！と思えるような居場所があれば安心する人もいるかもしれない。
　これらのことから、私たち探究32班は悩みを気軽に 相談 できるような、家や学校とは違う、当人たちにとって居心地が良 い第二の居場所をつくりたいと考え、探究を進めることとなった。
　つぎに、私たちは、有識者の方にアドバイスをいただき、近年急速に発達しているメタバース上での居場所づくりの検討を行った。初めは、現実で実在する空間での居場所を作ろうと考えていたが、近年発達しているのであれば、自分たちも今後さらに発展していくであろう技術を取り入れて今だからできる新しい居場所づくりをつくりたいと考えた。また、メタバース上では素顔を出す必要がないため、そこに魅力や興味を持ってくれる人もいるのではないかと考えた。
　メタバースのメリットとしては、直接対面せずに様々な人と交流できることや、自宅でも参加できるため、参加のハードルが低いことである。
　デメリットとしては、普及率が低い・新たな導入が難しいことである。

私たちの話し合いの結果、デメリットよりもメリットの方が多く挙げることができたため、メタバースプラットフォーム「Cluster」を用いて居場所づくりを行うことに決定した。

そして、修学旅行の探究の一貫として、 NPO法人み・らいず2様を訪問した。み・らいず様の居場所は仮想空間ではないが、学生の第2の居場所を作ろうという目的は同じであるため、話を伺った。居心地の良い居場所をつくるために必要なこととは、例え取り組みに失敗したとしても挑戦すること、自分の意思や望みなどを自分から伝えられるような環境づくりを意識すること、一人ひとりの特性を見つけて受け入れ合い、認め合うことだ。言葉で言うことは簡単だが、実際にこのような居場所をつくることには、運営する側と参加する側の思いが通じていなければならず、とても難しいことだと思う。しかし、みらい・ず様には毎日子どもや学校に行けていない学生が訪れている。参加する側、運営する側の双方の信頼関係も築くことが大事だと感じた。

加えて、少年少女全国ネットワーク学習会 こどもまんなかの居場所づくりへの参加し、居心地の良い居場所をつくるために必要なことは、イベントの参加者が主体的に行うことができる活動内容を考えること、自分の意思や望みなどを自分から伝えられるような環境づくりを意 識すること、ひとりひとりの特性を見つけて受け入れ合い、認め合うことが大切であると学ぶことができた。

最終的な探究のまとめとして、私達はイベントを開催することを目標としていた。しかし、イベントを開催するにあたって、インスタグラムやTwitter等で呼びかけを行ったものの、多くの参加者を集めることができず、開催することが不可能だった。

これらの反省点としては、私達のアカウントの認知度が低く、情報を広めることができなかったこと、それから、他の団体やボランティアの人たちが行っている。イベントの内容との違いを明確に強調することができなかったことが挙げられる。

Ⅳ考察

これらの探究を通して、私達は、様々な外部連携を行い、学生が過ごしやすい居場所を作るためには、何が必要なのか、何を求められているのかを、学ぶことができた。居場所をづくりには、次の3要素が大きく分けて大切なことだと考える。3要素とは、「安心感」、「互いの信頼」、「認め合う」ことだ。他にも多くのことが大切ではあると思うが。私たちのこの探究を通して、この3つの要素が最も大事であると考える。

参考文献

https://me-rise.com/ NPO法人み・らいず2
https://childrennet.wordpress.com/ 少年少女センター全国ネットワーク
https://www.hus.ac.jp/hokukadai-jiten/detail/29c75895e4b747276c074b2b26efca8a42f4b1fa-17311/ 北海道科学大学 メタバース利用のメリット

謝意

NPO法人みらいず・2様